



交通安全について

会津教育事務所

総務次長 芳賀

英夫

「あなたが持っている数多くの耐久必需品の中で、手離しがたい品を三つあげよ」と問われたら、多くの人は、きっと車をその中の一つに入れるに違いない。もちろん私も車は手離せない必需品の一つである。今全国の自動車台数は六千万台にのぼるといふ。本県もすでに百万台を超え運転免許

許人口も同数になる勢いで増えている。一家に二台、三台も決して珍しくない。まさに車社会である。こうした中であつて道路はいわば戦場のようになり、交通事故がいつ我が身に降り懸かるかも知れない状況にある。国、県、関係機関が諸施策を掲げ、事故防止のため躍起になつて取り組ま

なくてはならない。ところで私たちの周りには、大小さまざまな事故を体験された人がたくさんいる。それらの人たちの話を直接伺つたり、人づてに事故のようすを聞いたりするとき、私はいつも謙虚に耳を傾け、自分の身に置き換えて反省することにしていく。それが死亡事故につながる話であればなおさらで

ある。事故防止の特効薬はない。私たちに出来ることは交通ルールを確実に遵守することであり、正しい運転マナーの実践を習慣づけることであらう。また、児童生徒への交通安全教育の視点から述べると、難しい交通法規を教える以前に、車を運転したり、道路を歩いたりするその時々、自分のいかなる姿を児童生徒に見せているかと言ふことであらう。つまり自分を厳しく律し、児童生徒に交通ルールの範を示すことが最も基本ではあるまいか。

連日多発する交通事故。運転の仕方によつて凶器にもなる車。車社会に参加する一人として安全意識を高め、責任をもつて運転すべきである。それが出来なければ、私は車を手離すべきであると思つていく。

ている卵、ミルク、大豆、小麦、米などの「食物」アレルギーであることがわかつてきた。なかなか治りやすかつたアトピー性皮膚炎も食事療法（除去食）で数日で効果があらわれる。食物アレルギーは、アレルギー体質を刺激して、将来ダニや花粉などによるゼンソクや花粉症をおこしやすい性皮膚炎と考えると、食事療法できちんと治してやりたいものである。



アレルギー行進曲

医療法人 社団福寿会 武田病院 院長 武田 尚 壽

アレルギーは学校検診で増加傾向（生徒の三割あるいはそれ以上）が認められているにもかかわらず、よく理解されていないためにその対策は十分とは言いがたい。ではアレルギーとはどのようなものなのであろうか。アレルギーは遺伝と関係がある。アレルギー体質を持った子どもは乳児期にアトピー性皮膚炎や下痢、腹

痛などの消化器症状があらわれる。生後六か月ぐらゐになるとかぜをひいた時ゼンソクというようになり、気管支ゼンソクや更にアレルギー性鼻炎になる。ゼンソクは七、八歳あるいは十四、五歳になると約七十パーセント前後が治るが、思春期を過ぎてもゼン

腹痛などの原因が毎日食べ

でも入賞者を出しているが、学校プールの練習だけで入賞しているのは、本校の生徒だけではないのか。本校の水泳のほかにスキーでも河沼の郡大会では学校対抗二連勝。昨年は県中体連大会でリレー競技男子六位、女子二位になり、東北大会にも出場している。

特色ある学校紹介 全員参加による活発な部活動 三島町立西方中学校

本校は豊かな自然環境に恵まれた桐の香の漂う三島町にある生徒数三十七名、教員九名の小規模校である。地域に根ざした学校を目指し、地域との連携を密にしながら経営にあたつていく。生徒・教職員・保護者の団結力は強く、エネルギーが豊富である。そんな中にもなごやかな雰囲気、満ちた落ち着いた学校である。学校教育目標の「豊かな心を育む生徒、自ら学ぶ生徒、たくましく生きる生徒の具現をめざし「文武両道の学校」を合言葉に、年間を通しての全員参加の部活動を実践している。

両沼が一番のミニ校
年間を通しての部活動は、男子野球、女子バレーボールの二部だけで、季節に応じ、陸上競技、水泳・スキー部が特設され、全員がすすべての部に所属し大会に参加している。その中でも水泳の成績は抜群で、河沼大会では昭和五十三年以来、男女総合十三連勝している。会津大会でも入賞者を出しているが、学校プールの練習だけで入賞しているのは、本校の生徒だけではないのか。本校の水泳のほかにスキーでも河沼の郡大会では学校対抗二連勝。昨年は県中体連大会でリレー競技男子六位、女子二位になり、東北大会にも出場している。

生徒は全員、どの部にも所属している。五月から七月にかけては、放課後になるとまず陸上、終わると野球、バレーに分かれての練習、その後水泳と三部が続く。

そんな頑張りを持続できしかもすばらしい結果を生み出す原動力は何か？

第一に生徒の「素直さ」である。指導者の指示を信じて疑わない。そして黙々と励む。当たり前のことが当たり前にできる生徒だからである。

第二に「ねばり強さ」である。つらいこと、きびしいことはできればやりたくない、そんな生徒が多くなっている中で「やらなければならぬことは、どんなにつらくとも……。」というそのねばり強さ、根性だと思ふ。

第三に、先輩の築いてくれた伝統を守らなければという「けなげな心」だと思ふ。「西方中このすばらしい伝統をおれたらの時にくずしてはならない。」この気持ち・心が、頑張れる力と信じて疑わない。

研究校紹介

体力づくり研究推進校

高郷村立高郷第二小学校

本校は、平成元年度から三年間「体力づくり推進校」として文部省より指定を受け、研究主題「めあてを持って、楽しく体力づくりにはげむ児童の育成」を設定し実践に取り組んでいます。新学習指導要領体育科の趣旨を踏まえながら、教科体育を中核とし、学級活動、教科外体育、給食指導の時間等での指導を通して運動に親しみ、将来にわたって進んで体力づくりにはげみ、個性を伸ばし自己実現を図っていく児童の育成を目指しています。

平成元年度は、研究の方向づけと授業研究を中心に研究の基礎固めに、今年度は、教科体育、学級活動の指導のあり方と、子どもたちが主体的に運動や遊びができる業間活動のあり方等に視点を当てて研究を進め、その研究の一端を、去る九月二十七日の中間発表会において公開したところであり、現在は、来年度の本発表で、自ら進んで外に出て、元気に運動をする子どもたちが多くなってきた等の研究成果を踏まえ、心身共にたくましい体力を持った児童の姿を公開できるように、全職員力を合わせて研究を進めております。

充実感をもたせる 図工指導

河東町立河東第一小学校
教諭 星 美 法

はじめに

新学習指導要領により、図工科では次のような改善点が示された。

- (1) 想像力を働かせるとともに、手を十分に働かせて創造的につくる工作的な内容を重視する。
- (2) デザインの能力の育成を重視する。
- (3) 鑑賞の適切な指導を重視する。
- (4) 材料をもとにした造形遊びを重視する。
- (5) 弾力的な指導を重視する。

私は、これらの趣旨をふまえて、児童一人一人が

- ① 図工科が好きになること
 - ② 製作・創造の喜びを味わい満足感をもつこと。
 - ③ 意欲が持続し、次時学習がやりたくなること。
- を日指して次のような実践をしてきた。
- 一、構想段階重視の指導**
- 図工科のように物を作りあげていく学習では、一人一人にとって完成の見通しと可能性がなくては意欲や喜びは薄れてしまう。従って、特に構想段階でしっかりと学習の設計をすることが大切であると考え、ここでは、試し書きや試し作りなどできちんと方向づけをし、完成の見通しが立つよ

う個に応じた相談と指導を徹底するようにしている。

二、図工タイムの設定活用

週一回、業間時に図工タイムを設け全校一斉のとり組みをしている。各学年で、クロッキー、色づくり、折り紙、切り紙、粘土遊びなど、主に手を使った技法的な基礎基本を身につけさせるようにしている。

三、鑑賞コーナーの設置

全員の図工作品を一度に展示、鑑賞するのは困難なので、場所を特設し、何人かずつの作品を一週間交代で順々に展示、紹介する。ここでは友だちの良い点や工夫点などを見つけた

り、自分の作品展示で喜びや自信を感じとらせたりするようにしている。

おわりに

六年生三十名の担任である。当初は図工ぎらいが三分の一ほどだったが、今ではほとんどが好きだと答え図工科の時間を楽しみに待っている。

生涯学習体系が整備される中で、図工科学習で得たことが児童たちの今後の生き方に何らかのかわりを持ち続け、心豊かな人間に成長して

私の実践

新学習指導要領の趣旨を生かした

歴史学習を考える

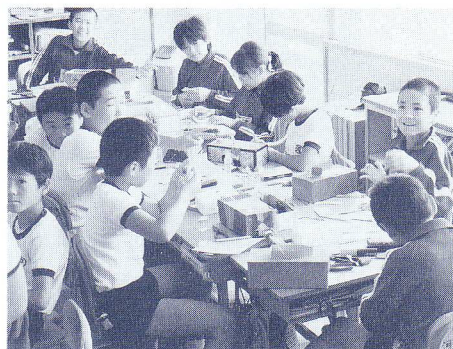
西会津町立群岡小学校
教頭 佐藤 敏 信

はじめに

歴史学習に対する子ども一人一人の興味・関心の程度には大きな差が見られる。六年生十四名の分科担任をして、歴史上大きな働きをした人物や文化遺産を中心に、少しでも興味を持つ学習となるよう、次の三点に重点を置いて指導をしてきた。

- (1) 時代区分の特徴となる人物や歴史上の事象を大きくとらえ、その前後の時代と比較させながら学

られるよう願っている。



戸城にこんな多くの武士が入っていくのか」という初めの課題が作られた。〈予想したこと〉

- 。將軍が強いので祝いの品を届けにきた。
- 。將軍が新しくかわったのであいさつにきた。
- 。このことを受けて、小単元を通ず学習課題を三代將軍家光の人物とからませ、「家光だけがなぜめだつのか」とし、その後の学習へと発展させてきた。

。参勤交代をさせたから。鎖国をしたから。キリスト教をとりしまつたから。

。日光東照宮を建てたから。

この予想を学習計画に生かし、江戸幕府が安定

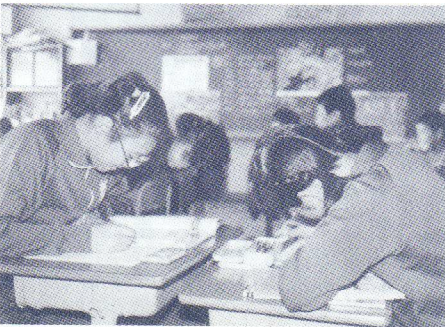
した武士の時代を築いたことを学習してきた。特に同じ武家政権の室町幕府と比べ、その勢力の強さを明確にとらえられた。

「家光はいろいろきびしいきまりを作ったり、自分にもきびしくした人で、すごいと思った。そのくらいきびしくしないと幕府はばらばらになるのだろう。」

おわりに

西会津町群岡には江戸幕府が開かれる直前の会津の領主蒲生氏郷の画像が残されている。その由来と人物について探るため西光寺に出かけた。画像はさほど大きなものでないが、端正な中に本物の持つ落ち着いた風格が感じられ、子どもたちは時間のたつのも忘れて見とれていた。

歴史の学習を通して、広い視野を持つと共に、郷土の先人の業績に対しても関心を持たせていきたい。



心の触れ合い

会津若松市立城北小学校
教諭 井上 早苗



早いもので、教師としてスタートしてから半年以上になる。毎日が新しいことの連続で、戸惑いや不安も大きかったが、失敗しながらも何とかここまで来ることができた。それは、先輩の先生方の温かい励まし、そして学級の子どものたちのお陰だと、心から感謝している。

子どもとともに

会津坂下町立第一中学校
教諭 佐藤 巳貴



子どもたちと話をしながら思うところがあります。わたしは親から受けたしつけ、今まで生きてきた中で学んだ社会のルール、それらがそのまま子どもたちに伝わり吸収されてしまうのではないかと。あらゆる可能性を秘めた子どもたちが、わたしと出会ったことでどのように成長していくのだからかと考えるたびに肩がな

教師としての夢

山都町立山都中学校
教諭 梅宮 賢



「先生、おはようございます。毎朝、明るい笑顔で私を迎えてくれる子どもたち。その元気な顔を見てみると、今日もがんばらなくては、とみるみる力がわいてくる。子どもたちは、私の元気の源なのだ。私は、子どもには無限の可能性が秘められていると思う。一人一人の中にたくさんの「芽生え」がある。その可能性を大切に育てていくことのできる教師、それが私の夢であり、課題である。今後とも心の触れ合いを大切に、子どもと共に一歩ずつ向上していきたい。



私の抱負

新任教職員コーナー
人生の中で「あの先生に出会えて本当に良かった」と思える人は幸せです。その「あの先生」になりたくて飛び込んだ世界ですが、どうやら道は険しそうです。まずは「先生」という字の通り「先に生まれた」者として、人生の先輩として、アドバイザーしていかれたらと考えています。

子どもたちからたくさん学び、子どもたちと共に成長していくつもりです。

初心を忘れず

塩川町立堂島小学校
校長 上野 昭男



数多い職業の中から教師を選んだからには、それ相場の理由があつてのことと思うし、抱負もあつてのことと思う。そうであればその理由を忘れずに、抱負をいつまでも鮮やかなまま持ち続けてほしいと思う。決して自分だけの都合で、それを消滅させてもらいたくない。抱負というものは、

二十代の魅力で

河東町立河東中学校
教諭 大滝 遼治



合唱コンクールや合奏コンクールで若い先生の演奏を聴くと、大変勉強になります。そこで表現される音楽は、型にはまった堅さがなく、音に柔軟さがあり、感性が感じられます。また、現代の豊かな音楽情報の中で育ってきた無理のない自然さが見られます。日々の教育活動の中でも若い先生方の手さわるよい

自分に厳しく

新鶴村立新鶴中学校
教頭 木村 富之助



現実味が加わればやがて使命感に变身するからである。今春教職についた先生方は、今その大事な抱負を胸に、教師として具備すべき能力・技量・資質などの形成にむけて奮闘中のことと思うが、それは教師として当然具備すべきものへ対しての努力であつて、特別なことでもなければ、強いられやるものでもない。初任者であつてもベテランと等しく学級を教科をまかされるのが教職である。初任者だからといって逃げないためにも、日頃の実践研修に励んでもらいたい。



初任者に望む

仕事ぶりが見られます。文書を作っても、計画を立てるにしても、そつなくこなします。

しかし、二十代ぐらいの若いうちは、失敗ややり過ぎを恐れぬがむしろ必要な持ちがあつてもよいと思えます。生徒もそれを認めてくれます。二十代には二十代でしかできないことがあるはず。経験は後からついてきます。前進、前進。

れば、子どもが持っている豊富な可能性の大事な部分を切り捨てるほかないんだ」と林竹二氏は言われる。初任者誰もが、この言葉の意味を厳粛な思いで受け止めて、努力をしてもらいたい。その努力とは、「先輩のクラスのようにうまくいかないのはなぜか」、「自分のどこが足りないのか」と悩みながら謙虚な気持ちでその矛先を自分の内部へ向けることである。「まあまあ」でお茶をにごし、その結果、責任を子どもへ転嫁してしまうことはないか。自ら学び続けることができる。子どもも教師の言うことは聞かなくとも、することは見ている。教師自身が自分の見方を少しでも高め、力量を確かなものにしよう」と日々研修し、努力すること、その姿が実は大変な教育力であることを強調したい。



